

# 平成22年度事業評価シート(ハード事業)

NO. 27

評価2 ハード

## 1 事業名等(Plan 1)

事業名	街路 昭和中山線改良事業															
所属名	基盤整備部 建設課 管理・用地グループ															
第七次総合計画	政策	3	「すみよさ」のあるまちをめざして	分野	3	道路・交通	基本施策	1	便利で快適な道路環境を整備する	施策	1	機能的な道路ネットワークの形成				
予算科目	7	4	3	街路事業	費	74311	街路昭和中山線整備					事業				
					費							事業				
					費							事業				
根拠条例・実施要綱・担当部門計画等												合併まちづくり計画、道路橋梁整備計画(H17~H26)				
事業の実施主体												<input type="radio"/> 市	<input type="radio"/> 市以外→			
事業の実施方法												<input type="radio"/> 直営	<input type="radio"/> 指定管理	<input type="radio"/> 業務委託	<input type="radio"/> 団体等補助	<input type="radio"/> その他→

## 2 事業の目的・概要(Plan 2)

目的は対象(何を、誰を対象に)と意図(対象をどういう状態にしたいのか)を、概要は実施手法、手順等を記入

目的	誰のために(対象)	地域住民及び道路利用者。	受益者数	人
目的	対象をどういう状態にしたいのか(意図)	国道41号と高山駅を結ぶ道路で、歩車道分離による歩行者の安全確保と車道部の2車線化による快適な通行の確保を図る。		
概要	事業の実施手法、手順	国道41号と市内中心部を結ぶ街路整備。 都市計画道路昭和中山線 L=573m W=6.0(12.0)m 両側歩道付の2車線道路に改良。 ○都市局街路、社会資本整備総合交付金(5.5/10)		
概要	事業始期・終期	始期: H17 年度から 終期: H23 年度まで	設定なし	
今年度の改善・改革ポイント	前年度の評価結果、指示事項等を踏まえ記入 国道41号側の用地から先行確保するように事業を実施する。			

## 3 事業費の推移・結果(Do)

①(コスト面)					
区分	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
総合計画計画額(当初)	260,000	260,000	132,000	97,000	-
総合計画計画額(計画額)	260,000	260,000	132,000	97,000	-
事業費	予算額	484,000	114,000	131,000	
	決算・見込	435,587	269,529		
財源	国庫支出金	266,200	62,700	45,925	
	決算・見込	233,904	145,696		
県支出金	予算額				
	決算・見込	45,000			
地方債	予算額				
	決算・見込				
受益者負担	予算額				
	決算・見込				
繰入	予算額				
	決算・見込				
一般財源	予算額	217,800	51,300		
	決算・見込	156,683	123,833		
H17国勢調査 96,231人 32,174世帯 ※コスト→行政活動の単位当たり経費算出、変動を経年比較により、効率性評価					
受益者負担率(受益者負担/事業費)	単位	%			
市民1人当たりコスト(事業費/H17人口)	単位	円/人	4,526	2,801	
1世帯当たりコスト(事業費/H17世帯)	単位	円/世帯	13,538	8,377	
受益者1人当たりコスト(事業費/指標)	単位	円/人			
↓ その他(空欄にコスト指標名記入、事業費をベースとして単位当たりコストを算出)	単位	円/人			

## ①(成果面)

活動・成果指標	活動指標	投入した行政資源を使い、どんな活動を行ったか、どのようなサービスを市民に提供したかを表す指標	指標名	道路整備延長	資料・出展算出式	単位	m			
	活動	目標値	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	活動の方向
	実績値	0	463	503	573					↑
成果指標	活動やサービスを行った結果、市民にどのような影響(効果)をどれだけ与えたかを表す指標	指標名		資料・出展算出式	単位					
成果	目標値	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	成果の方向	
実績値										
達成率										

## 3 事業費の推移・結果(Do)

前年度までの実績(累計)	対象・手段	補償積算等 N=14件 用地購入 A=973㎡ 建物等補償 N=20件 工事 N=9件	705,116 千円
	事業費	(内容) 工事 146,047 千円 用地補償 541,681 千円 その他 17,388 千円	
	受益者負担	(内容)	
本年度	対象・手段	補償調査等 N=2件 用地購入 A=486㎡ 建物等補償 N=5件 工事 N=1件	131,000 千円
	事業費	(内容) 工事 30,000 千円 用地補償 96,000 千円 その他 5,000 千円	
	受益者負担	(内容)	

## 【成果面】

進捗評価	項目	評価内容(算定式)	進捗率
	本年度	整備見込 40 / 整備目標 40 単位 m	100.00
	本年度までの累計	整備見込 503.00 / 全体計画 573.00 単位 m	87.8
進捗結果・理由	事業の進捗率の考え方	累計 836,116 / 全計画額 933,116 単位 千円	89.6
	理由	用地交渉が難航している。	
<input type="radio"/> 計画どおり <input type="radio"/> 未達成 該当項目に「○」表示			

## 4 分析・評価(Check)

**①事業の目的評価(事業の目的・概要に対する妥当性から事業の必要性を評価)**

(現状及び判定理由) 第7次総合計画に位置づけられており、高山駅アンダーパスに通じる道路でありアンダーパスが開通したことから、今後も実施する必要性が高い。

判定 A:非常に高い B:高い C:低い D:非常に低い

目的評価 **A**

---

**②コスト面評価(事業の推移、コスト指標の結果からコスト面を評価)**

該当項目「1」入力(注 平成20年度から平成22年度第一四半期までの推移から判断)

減少	維持	1	増加
----	----	---	----

(判定理由) 事業完了予定年度を間近にしていることから、事業費は縮小傾向となる。

③成果面 ②コスト面

拡大	維持	減少
0	1	0

コスト・成果ポジション **B 第2水準**

---

**③成果面評価(活動指標・成果指標から成果面を評価)**

該当項目「1」入力(注 平成20年度から平成22年度第一四半期までの推移から判断)

拡大	1	維持	減少
----	---	----	----

(判定理由) 現道幅が狭いため、歩行者の安全確保や車同士のすれ違いにも苦慮している現状であり、整備による利用者の快適性と安全性が向上する。

目的評価「A・B」かつコスト・成果「第1水準」 → I 「良い」 良好な水準を維持

目的評価「A・B」かつコスト・成果「第2水準」 → II 「やや良い」 「I」の水準に向けた改善が必要

目的評価「A・B」かつコスト・成果「第3水準」 → III 「普通」 「II」の水準に向けた改善が必要

目的評価「A・B」かつコスト・成果「第4水準」 → IV 「やや良くない」 「III」の水準に向けた改善が必要

目的評価「C・D」もしくはコスト・成果「第5水準」 → V 「良くない」 「IV」の水準に向けた改善もしくは事業の休止、廃止などの検討が必要

---

**一次評価 主管課**

評価区分 **II**

判断の理由及び課題問題点  
用地交渉に難航しており、事業推進方針の検討が必要となっている。

## 5 今後の方向性(Action)

評価結果に対する改善提案 (下記チェック)

計画どおり  改善・継続  終期設定  休止  廃止  完了

難航している地権者との交渉方針を検討し、早期に用地取得を行う。

**次年度実施方針**

事業最終予定年度を向かえ、早期に完了するよう計画的な事業執行を進める。

---

**総合評価**

コスト	中	成果	中	評価区分	III
-----	---	----	---	------	-----

「II」以上の水準に向けた改善が必要

本事業は国道41号とJRアンダーパスを結ぶ路線の整備であり、完成すれば国道41号線交差点の渋滞が緩和されるなど、利用者の利便性・安全性が大きく向上する。  
早期に事業効果が現れるよう事業を推進する必要がある。